

1 1 月度読書会 「ヘリオトロープ、沈丁花」

吉屋信子 『花物語（下）』

里井雪

本作の選定について

- 今までにないテーマ？ 知らない人が多かったは意外、吉屋信子研究や同性愛より（評論家視点）
- 『ヘリオトロープ』 関東大震災との関わり（香水を回す）
- アニメ、ラノベへの影響について（源流ではなく、そのものがラノベ的？）
- そもそも、この種のものが好き
 - 幼いころから、悩んだこともあったが、「手段」であって「目的」ではない。気持ちはわかる
 - 少女漫画が好きだとはいえなかった時代（実際、そうは読んでいない）

低俗とは

- 吉屋信子自身が気にしていたらしい
- 「物足りない」はその通りかもしれない（統計分析をしたい！）
 - 日常系アニメ（空気感のみ）をどう感じる？ 「やおい系（本来の意味で）」
- 低俗という表現は「女子供」という差別意識もあった過去のものか？
- 私たちは、なんのために書くのか？

百合という世界

- 百合というよりエス小説と呼んだ方がいいかもしれない
 - 一般論ではあるが、このカテゴリーで論ずるべきではないとの意見も
 - 「百合」というと憧れ～性的関係まで広範囲で曖昧
 - モノを書く立場から言葉をオブラートに包みたくない
 - 宝塚、擬似男性、ヘテロとの差異が少ない
 - 男性が理想とするところの少女愛も違う

ヘリオトロープ

- ギリシャ神話、太陽神アポロンに恋をした水の妖精の物語が下敷き
- 擬古文体の非常に美しい文章。『薤露行（漱石）』 『即興詩人（鷗外）』
- 前後の女子学生が書籍を見つけて.....のストーリーは必要か？ （関東大震災）
- 一目惚れは恋愛モノのお約束？
- 金貨を投げ捨てる少女に姫への妄執を感じる
- 女性同士、眼差し、憧れを至高とする考え方だろう

沈丁花

- 姉妹に同性愛的な空気感がない？
- 『花物語』全体を通し、その自然さは私好みだが
- 姉の妹への愛情はパラノイアのような拘りを感じる。自己犠牲が高じて被虐性癖、妹への偏愛はインセストタブー。考え過ぎか？
- 解釈により、どこか背徳の香りがする作品
- 妹の想い人は、なんの注釈もなく、当然のこととして女性

マリア様がみてる

- ラノベ、アニメへの影響
- 宝塚的な擬似男女ではなく純粋な女同士を扱ったライトノベル
- 作者は吉屋信子を知らなかった
 - BLの裏返しとしての百合作品
 - ラノベの歴史上、エポックメイキングな作品
- 男性がいわゆる「百合モノ」に参入する切っ掛けとなった作品

青い花

- 性的マイノリティへの理解が深い作者
 - ファンタジーだが随所にリアリティ
- 放浪息子
 - トランスジェンダー作品
 - 主人公男性の恋愛対象は女性

やがて君になる

- 2018年、当時東京大学に在学していた学生百人へのアンケートをもとに、東大書評誌『ひろば』の編集長が執筆した著書『東大生の本棚 「読解力」と「思考力」を鍛える本の読み方・選び方』にて紹介
- 東大の販売所で新刊が発売される度に売り切れになる、心理描写が巧み、感情の動きや内面描写の美しさ
- その小説的な表現から「文学より文学的な漫画」と評する東大生もいた
- 百合漫画の金字塔ともいわれている

アニメ一般

- 女性しか出てこない
 - バーチャルへの愛情、アイドルなど実体はない
 - 知らない男に取られるくらいなら、女同士でイチャイチャしてくれた方がよい
- 『百合姫』
- 『ゆるゆり』
- 『ご注文はうさぎですか？』
- 『私の百合はお仕事です！』

ソドミー法

- アメリカ
 - 98年まで有罪判決、軍では今でも有効
- 中国
 - 01年疾患リストから削除
 - 一人っ子政策の反動からも同性愛を禁じるレギュレーションも多い
- イラン
 - シャリーアに基づき死刑となることがある
- チューリングの悲劇

ひさの星

- 斎藤隆介／作 岩崎ちひろ／絵の絵本
 - 決して開かぬ座右の銘
- 自己犠牲は心を打つが偽善的との批判はあるだろう
- 「特攻隊を礼賛」とまで言うとは極論では？
- ちひろ美術館

Qについて

- <Q 1> 自作を描く時、その文芸性・社会性について、あなたは強く意識しているか？ 「なろう」全年齢での性愛シーン（どこまで？）
- <Q 2> フィクションを構築するにあたり、これを禁忌とした方が、演出効果が高まるとも言える
- <Q 3> その他